

ひきこもり地域支援センター の取り組み (高知県の場合)

高知県立精神保健福祉センター
(高知きこもり地域支援センター)

山崎 正雄

ひきこもり地域支援センターの活動

- ① 相談支援(窓口周知)
- ② 居場所づくり
- ③ 連絡協議会・ネットワークづくり
- ④ 当事者会・家族会開催
- ⑤ 住民向け講演会・研修会開催

その他

関係機関の職員養成研修


(都道府県・指定都市は必須)

サポーター派遣・養成

※管内市区町村への後方支援事業(都道府県は必須)

個別面談・カウンセリング (本人・家族・支援者)




 高知県
Kochi Prefecture

僕らのしんどさや
不安をわかって
くれる人がいれば、
自分らしく生きるための
支えになる。

ひとりで
悩まないで
-ひきこもり-

ひきこもりに関するご相談先は以下のようなところがあります。

お近くの市町村、県機関、
その他関係機関



居場所づくり (本人・家族)



青年期の集い

～ひここもりや対人関係で悩みを持つ若者の集い～

青年期の集いは、人のコミュニケーション手段を頼りに、ひここもっている生活を何とかしたいと思っている方などを対象に、同じような悩みや苦悶同士で、気軽に集まる場です。お茶を飲みながら話をしたり、体を動かしたり、創作活動したり、参加者で相談して予定を立てています。

一歩外へ出てみて、新しい場所を通り過ごす体験を通して、何か生活に変化がでてくるとは思いません。「どんなところだろうか」、「行ってみようか」と思われた方は、気軽にひここもり地域支援センター(または、精神保健福祉センター)までご連絡をお願いいたします。

毎週 水曜日
14:00～16:00

場所：高知市丸ノ内2-4-1
保健衛生総合庁舎1階
グループ室1 他

～対象～

ひここもりや対人関係に悩む青年
・利用開始年齢が39歳まで
・定期的な個別相談と兼行

～内容～

レクリエーション
創作活動
外出しての活動
フリースペース等

※内容によって実施場所が一部変更される場合があります。

～お問合せ先～

高知県のひここもり地域支援センター
(高知県立精神保健福祉センター内)
TEL. 088-821-4508

高知県立精神保健福祉センター
TEL. 088-821-4966
担当：入文、溝、佐野

青年期の集い 女子ミーティング

～ひここもりや対人関係で悩みを持つ女性の集い～

『青年期の集い』は、コミュニケーションの手段を頼りに、ひここもっている生活を何とかしたいと思ってる方に集まる場です。その中で、**女性だけの集いとして、女子ミーティングを開催します。**

毎月第4金曜日
14:00～16:00

場所：高知市丸ノ内2-4-1
保健衛生総合庁舎1階
グループ室1 他

～対象～

ひここもりや対人関係に悩む女性の方
(利用開始年齢が39歳まで)

ひここもり地域支援センター(または精神保健福祉センター)までお電話ください。
センターで相談スタッフと面談した後に、参加していただくことになります。

～内容～

(参加者で話し合って決めます)
お喋り、創作活動、レクリエーション、スナック、お茶 等

～お問合せ先～

高知県のひここもり地域支援センター(高知県立精神保健福祉センター内)
TEL. 088-821-4508

高知県立精神保健福祉センター
TEL. 088-821-4966
担当：入文、溝、佐野

ピアサポートセンター

ひきこもり経験者による
ひきこもり支援が
スタートしました

高知ひきこもりピアサポートセンターでは、
高知県にお住まいの
ひきこもりの方ご本人と
そのご家族からの相談を受け
寄り添い型の支援を行っています

ご希望の方には、無料で訪問支援も行います

ピアサポーターが
担当します ※

ご相談はお電話、メール
来所面談でお受けいたします

☎ 088-881-6301
080-2992-9590
✉ soudan@kochi-piacen.org

※ ひきこもり経験者で
KHJ全国ひきこもり家族会
連合会認定のピアサポーター

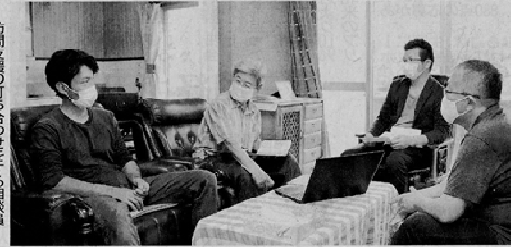
ホームページはこちら
<https://kochi-piacen.org/>

高知ひきこもりピアサポートセンター
〒7800826 高知市大膳町1-41 受付時間 9:00~17:00 ☎088-881-6301
開所日 月・水・木・金・土 (但し 祝日及び12/29-1/3を除く) 見学サテライトもあります。詳細は案内へ。



ひきこもり 経験者に相談

「言葉にせずとも苦しみ分かる」



訪問支援の打ち合わせをする相談員 (高知市大膳町)

県サポーターセンター設置 高知市大膳町

県内のひきこもり経験者が現在ひきこもり状態にあるご家族との相談に乗り、専門職と連携して支援する「高知ひきこもりピアサポートセンター」を県が高知市大膳町に開設した。経験者やその家族の9人が相談を始めており、「苦しみを体験した者だからその共感を大切に、本人やご家族寄り添いたい」と話している。(早崎康之)

昨年の県指針では、県内イリスの影響で活動を控え
ひきこもりの人は約9千人。相談窓口として専門職
格化。8月までに団体の相
が常駐する「県ひきこもり
地城支援センター(同中丸
ノ内二丁目)があるが、県
地城福祉課は「課題が
複雑・多岐にあり、窓口
の多様化が必要」として、
経験者が支援するピアサ
ポートセンターを4月に新設
で対応し、専門職と連携し
て訪問支援も行っている。
センターは元真備職員住
宅を活用。運営は「KHJ
全国ひきこもり家族会連合
会支部(香野町約400)に
委託(委託料約40万円)し
た。県は宿毛市平田町戸内
のたか根は、KHJのピア
サポートセンターに同センター
し認定を受けた20~70代の
経験者6人と家族5人で、
別の10人も養成講座を受講
5~9時/月、水、金曜休
み。電話080・80033・9
5200)。





ひきこもりの相談は高知市の住民からが8割

ひきこもり地域支援センターだけでは 全県域をまんべんなく・・・は難しい

保健所、市町村に相談窓口を・・・ ひきこもり支援を地域で・・・

ひきこもり支援のための講演会・研修会の実施

発達障害を背景とするひきこもりケース
の理解と社会参加に向けた支援

近藤直司

池上正樹

ひきこもり8050問題
～周囲ができること～

2020/2/15

池上正樹（ジャーナリスト／KHJ家族会理事）

otonahiki@gmail.com

2022.11.25

高知県ひきこもり地域支援センター主催
令和4年度 第2回ひきこもり支援に関する研修会

事例研究は援助職の視点と支援を洗練させる
～理解と解釈の広がりを育む方法～



長谷川俊雄

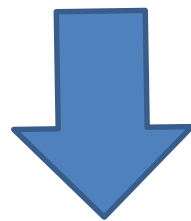
白梅学園大学子ども学部・教授
保健福祉士
代表理事
ば 理事

ひきこもりの本人支援への
認知行動療法の活用

徳島大学大学院SAS研究部

境 泉 洋

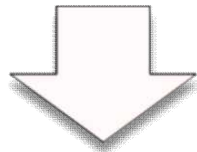
しかし・・・講演会、研修会だけでは、なかなか、ひきこもり支援の地域での活動に対するきめ細かな支援にはならない・・・



市町村、地域での
事例検討会議の実施へ

市町村の課題

- 市町村がひきこもり相談窓口を設置したが・・・
- 「この支援でいいのだろうか」という支援者の不安
- 地域での支援を後押ししてくれる存在がほしい
(支援者支援を含めて)
- 専門的な見立て、具体的な関わりの方法を知りたい
- 地域でひきこもり支援に取り組む機関のネットワークが必要



市町村のひきこもり支援をバックアップする存在が必要

地域でのひきこもり支援に向けて・・・ 市町村、地域での事例検討

市町村、サポステなど、地域でのケース検討 会議にSVとして参加



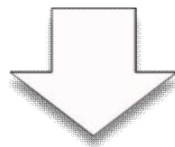
ひきこもり地域支援センターの求められる役割

「ケース検討会議」での助言・スーパーバイズ だが・・・

何か問題が起こったときだけの開催では、ケース検討会議の結果、その後のケースへの支援がどうつながったか、支援への考え方が良かったのかどうなのかも不明なままにもなりがち。

一時的な対応だけでなく、その後の支援のマネジメントを意識した継続的、重層的な会議が必要。

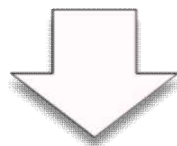
地域での継続した支援のためには、支援者同士の継続したつながりが必要。



継続した、定期的なケース検討会議の実施へ

保健所を中心とした、圏域ネットワークの構築

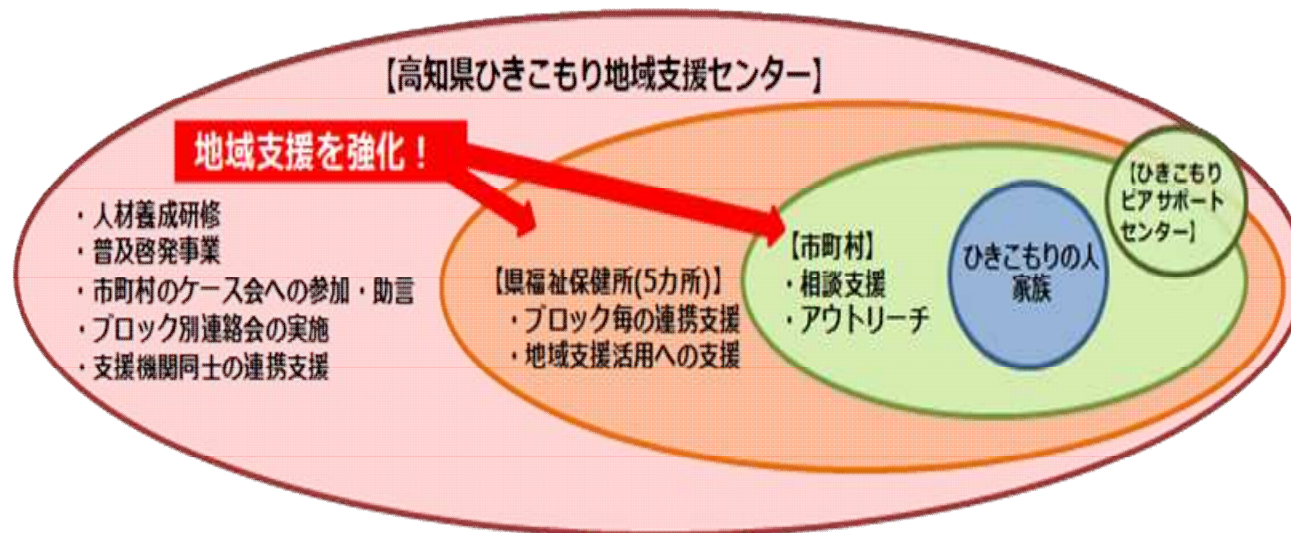
- 地域の課題に応じて、地域支援をすすめていく必要性
- ひきこもり地域支援センターだけでは、県内全域への地域支援は難しい



R3年度～

各保健所主催での圏域連絡会・研修会等の実施

⇒ ひきこもり地域支援センターから後方支援



ひきこもり支援の難しさ



地域で出会う『ひきこもり』

『ひきこもり』
ライフステージの
様々な場面で起こ
りうる

『ひきこもり』だけじゃなく、
生活困窮、高齢化、虐待、依存、
自殺など
複合的な課題

本人



世帯全体

市町村では、
様々な部署でひきこもりの方に出会う可能性があります

さまざまな分野への支援が必要

そもそも、
ひきこもり事例は一つひとつ
違う

ひきこもり事例検討会議の課題 ①

- ・そもそも、ひきこもり支援のスタッフは多くない
- ・さまざまな事例、複雑困難な事例を
一人で抱え込まざるをえないことも…
- ・事例の「変化」「進展」はスムーズに進まない
時間がかかる、ストレスがかかる…

事例検討しようにも、会議に事例を提出
するのに、エネルギーが必要…

(あんまし支援が進んでないし…

事例提出しても、変化もないし…

提出しても、責められる・指摘される…)



ひきこもり事例検討会議の課題 ②

- ・ひきこもりケースの理解が偏りがち(一面的)
- ・なんとかして「問題解決」に導こうとしがち
- ・「できること」を求めて、現実的な解決を求めがち
就労や就学、福祉サービスなど、既存の社会
資源や制度の中で支援を組み立てがち
- ・ケースに関わっている一部の支援者が中心で、
関わっていない人は傍観者になってしまいがち



「ひきこもり」の事例検討だけでは難しい

そもそも、検討会議は何のために？



何とかして、解決法を見つけることだけでいいの？
つなげれば「ゴール」とは限らない

息の長いレースをいっしょに歩んでいくことも大切

いっしょに歩んでくれる
支援者同士の仲間づくり
も大切

さまざまな生きづらさを抱える人を、もっと多面的に考えなければいけないのではないか？

医療や既存の社会資源につなぐこと、就労支援につなぐことがゴールでいいのか？

“支援者”の考える「問題解決」が、そもそも、ゴールなのか？

“支援者”自身が既存の枠から、解放されるべきではないのか？ 支援者支援を含めて。

そのための人材養成を地域で…

支援者へのサポートの充実へ (地域の人材養成・支援者支援)



地域での人材養成研修

市町村・地域の人材を養成する研修へ



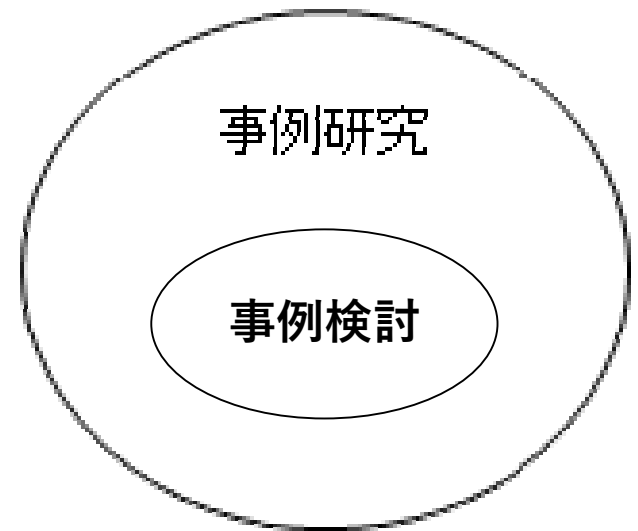
ひきこもり地域支援センターが地方に出向き、**人材養成研修**を行う

どの地域でも、専門性を高め、継続した適切な支援
を実現するためには…**人を育てる**こと

県内のすべての
保健所職員、市町村職員、社会福祉協議会職員、教育関係職員、
民間事業所職員などが
それぞれの地域で「人」支援を実践できるように

事例研究による グループスーパービジョン

事例研究は、方針や方法を定める事例検討とは異なり、共感や提言・提案によって、援助者自身の気づきやエンパワメントにつなげ、援助者のちからを育むことに重点が置かれるものです。



- × 答えを導き出す
- 希望やヒントを生む

県内いくつかの
ブロックに分け、
身近なブロックで
研修を受けてもら
えるように実施



実際には、県内の
ブロックに関係なく、
日程があった
研修場所で
受けた支援者も
多かった

参加者はさまざま

精神保健福祉センター

保健所・福祉事務所

市町村

社会福祉協議会

自立相談支援事業所(生活困窮者自立支援)

障害福祉サービス事業所

就労・生活支援センター

ハローワーク・ジョブカフェ

地域若者サポートステーション

教育センター・教育研究所

児童相談所

医療機関

居場所支援者 など

所属・職種等に関係なく、自由に意見を出してもらおう

事例を提出した人が困っていることに対してアイデア出し。

アイデアは既存の枠にとらわれない。

答えを出さない。
方針を出さない。
決めるのは、本人。

支援者へのサポート



人材養成研修



支援者連絡会議



事例検討会議
への出席

保健所等主催の
圏域連絡会や研修会への
支援



地域の支援力の向上・
バックアップ



支援につながる
ネットワークづくり

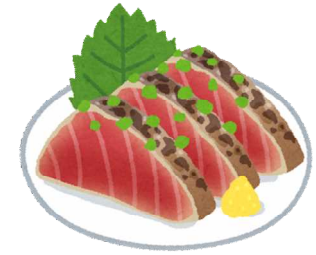
支援者・当事者・家族の 垣根を超えたネットワーク



「つながるフェスタ」

本人も家族も支援者も一般市民も一緒に・・・





ご清聴ありがとうございました。



 高知県
Kochi Prefecture

僕らのしんどさや
不安をわかって
くれる人がいれば、
自分らしく生きるための
支えになる。

ひとりで
悩まないで
-ひきこもり-

ひきこもりに関するご相談先は以下のようなところがあります。

お近くの市町村、県機関、
その他関係機関

